

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 (届出者)の名称	名鉄観光バス株式会社
地球温暖化対策事業者 (届出者)の住所	名古屋市熱田区神宮3-6-34 名鉄神宮前駅西ビル8階
工場等の名称	名鉄観光バス株式会社 名古屋営業所
工場等の所在地	名古屋市中川区中京南通2-7
業種	運輸業、郵便業
業務部門における 建築物の主たる用途	事務所
建築物の所有形態	自社ビル等(自ら所有し自ら使用している建築物)
事業の概要	一般貸切旅客運送業・一般旅行業
計画期間	平成27年4月1日 ～ 平成30年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

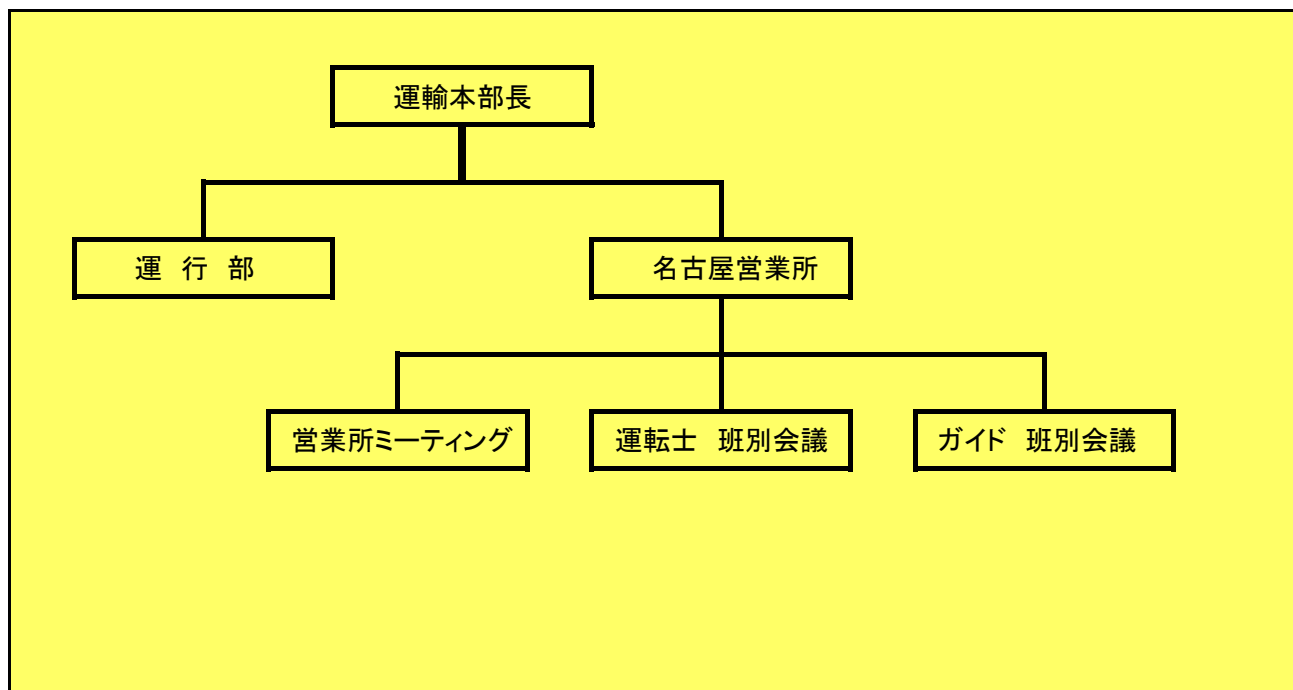
公表期間	平成30年7月27日 ～ 平成30年10月25日		
公表方法	☐	掲示 閲覧	(場所) 名古屋営業所
	☐	ホームページ	(HPアドレス) http://www.meitetsu-kankobus.co.jp
	☐	冊子	(冊子名・ 入手方法)
	☐	その他	(その他詳細)
公表に係る問い合わせ先	052-351-6212		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

- ①エコドライブに取り組み、環境負荷の低減および環境汚染の予防を目指し、NO_x、PM、CO₂等の地球温暖化ガスの削減に努めます。
- ②事業の合理化、効率化による省エネルギー、省資源に努めます。
- ③名古屋市のエコ事業所認定を更新し、事業活動における環境に配慮した取組みを実施していきます。
- ④交通エコロジー・モビリティ財団が推進する「グリーン経営」認証を取得して、地球環境の保全を目的とした活動を展開しています。(平成16年12月認証取得、平成28年12月更新)

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

目標年度（平成 29 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		2,596	t-CO ₂
（温室効果ガス除く炭素換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六フッ化硫黄		t-CO ₂
	⑨エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑨合計）		2,596	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	平成 26 年度		平成 29 年度		平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
温室効果ガス総排出量	2,826	t-CO ₂	2,783	t-CO ₂	2,798	t-CO ₂	2,689	t-CO ₂	2,596	t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			1.5	%	1.0	%	4.8	%	8.2	%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）						%		%		%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	平成 26 年度		平成 29 年度		平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
原単位あたりの排出量										
削減率（対 基準年度）				%		%		%		%
原単位あたりのみなし排出量										
削減率（対 基準年度）						%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

車両数の減少及び低公害車の増加により、基準年度（平成26年度）に対して目標年度（平成29年度）の温室効果ガスの目標削減率「1.5%」を達成できた。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・ 省資源の行動の 実践・冷暖房	・冷房28℃、暖房20℃を徹底する。 ・クールビズ運動を推進し冷房エネルギーを削減する。		・冷房温度28℃、暖房温度20℃で運用を行った。 ・クールビズ運動を平成29年6月～9月に実施。
省エネルギー・ 省資源の行動の 実践・照明	・使用していない部屋や昼休み、時間外の消灯を徹底する。		・営業所内に「節電・節水に協力を」の張り紙をしている。
省エネルギー・ 省資源の行動の 実践・その他の 項目	・使用していない電子機器の電源オフを徹底する。		・使用していない電子機器の電源オフを徹底した。
自動車等輸送機器に関する対策	・低公害車を導入する。 ・アイドリングストップなど燃費を向上させる。	平成29年度迄に低公害車5台以上導入し、平成29年度の燃費を1.5%(平成26年度比)向上する	・低公害車が9台増加。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目（平成 29 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 3 年度目（平成 29 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

・ L E D 照明の一部導入 ・ トイレトペーパー（リキップ）は再生紙を使用

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

・ 通勤・移動時などは公共交通機関を利用するよう取り組んでいる。
